

製品名: CPT1A ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21112**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:88kD;Observed MW:88kD

抗原情報

遺伝子名	CPT1A CPT1
別名	Carnitine O-palmitoyltransferase 1, liver isoform;CPT1-L;Carnitine O-palmitoyltransferase I, liver isoform;CPT I;CPTI-L;Carnitine palmitoyltransferase 1A;
遺伝子 ID	1374.0
SwissProt ID	P50416
免疫原	ヒト CPT1A の組み換えタンパク質

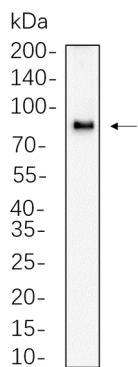
背景

細胞局在: ミトコンドリア外膜。ミトコンドリアにおける長鎖脂肪酸の酸化は、カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ I (外膜に局在し、界面活性剤に不安定) とカルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ II (内膜に局在し、界面活性剤に安定) が、カルニチン-アシルカルニチン転スロカーゼとともに順次作用することで開始される。CPT I は、ミトコンドリア内膜を介したカルニチン依存性輸送における鍵酵素であり、その欠損は脂肪酸 β 酸化速度の低下をもたらす。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



SKOV3 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを CPT1A ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロッティングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。